

氏 名	増 田 誠一郎
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 4 0 号
学位授与年月日	平成 2 2 年 3 月 2 5 日
学位論文題目	救急看護師の道徳的感性の特徴とその関連要因の 検討

## 論文内容要旨

※整理番号	140	(ふりがな) 氏名	ますだ せいいちろう 増田 誠一郎
修士論文題目	救急看護師の道徳的感性の特徴とその関連要因の検討		
<p>目的 救急看護師の道徳的感性の特徴を調査する。また、道徳的感性に有意に影響している要因(関連要因)について調査・探索する。</p> <p>方法 日本救急医学会の認定を受けている近畿地区の施設で、救急部門に勤務する看護師約 600 名を対象とした関係探索型量的記述的研究。調査期間は 2009 年 5～6 月。各施設へ研究依頼をし、承諾を得た上で、看護部を通して対象者へ調査票を配布。調査票は基本属性と組織特性から成るフェイスシートと Lutzen K.らが開発した MST (Moral Sensitivity Test) を翻訳した「MST 日本語版」で構成し、自記式質問紙とし、データ収集した。得られた MST の結果を、統計的手法に従い、操作を行った。</p> <p>結果 分析対象は 524 名、基本属性(性別、年齢、臨床経験年数、配偶者の有無、同居者の有無、職位、看護経験、免許・資格、看護教育背景、学会・研修会への参加)と施設特性(救急部署のスタッフ数、施設の救急形態、月間救急搬送数、月間救急受診患者数)において MST の結果に有意差がみられた。</p> <p>考察</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急看護師の道徳的感性の特徴として、患者への責任や患者に対する行為の結果を重要だと認識している傾向が高い。また、心理的葛藤時や患者への対応が困難なときには同僚のサポートが重要だと認識していた。一方で、成人病棟(内科・外科)の看護師との比較から、患者への誠実さが低く、強制的な治療を優先する傾向がみられた。</li> <li>2. 救急看護師の道徳的感性には、個人の基本属性や所属施設の特性の違いにより特徴がみられた。年齢や職位、経験年数、看護教育背景、救急部署の看護師数などの要因において、道徳的感性の複数の下位カテゴリーに有意差がみられ、影響を与える要因となっていることが明らかになった。</li> <li>3. 救急看護師は年齢や経験を積み重ねることで、内省的態度や情を示す姿勢が育成されていくことが分かった。患者への説明責任や強制的な治療といった傾向は、個人の基本属性の他にも救急形態や救急搬送数、受診患者数など、施設の特性に影響を受けている可能性が示された。</li> <li>4. 救急看護師は臨床において様々な葛藤体験に直面していることがわかった。年齢や経験年数が多いと、葛藤場面に直面していると認識することも多い。葛藤場面には倫理的場面を含むものも多く、それを問題として認識できることが必要であり、道徳的な感性が育成されることが重要である。</li> </ol> <p>総括 本研究では、救急看護師の道徳的感性の特徴について、MST (Moral Sensitivity Test) を用い、基本属性と施設特性による比較を行った。また、道徳的感性に影響を与える要因との関連について影響度をみることで検討を行った。その結果、救急看護師に特徴的な道徳的感性がみられ、複数の関連要因が影響していることが分かった。今後、臨床看護師の倫理的感受性をいかに高めていくかを検討する基礎資料の一つとなり得た。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)  
2. ※印の欄には記入しないこと。